立体構成の展開

―切替え線によるデザイン展開の試み―

富田 弘美 山村 明子

女性のドレスデザインの典型の一つである,フィット&フレアーのシルエットに着目し,その設計について取り上げた。立体である身体の形状にフィットさせるため,原型に設定されたダーツをデザインの構造上の切替え線に分散・移動させ,処理する方法を検討した。本報では水平,垂直,螺旋の三種類の切替え線を設定した。それぞれのデザインは,ほぼ同一のシルエットを表現する一方で,従来のデザインよりも高いフィット性をもつことが可能である。また,それぞれの切替え線の持つデザイン効果は異なる。また,各パーツの色彩の表現など新たなデザイン要素を見出すことが可能である。

キーワード:フィット&フレアー,文化式成人女子用身頃原型,ダーツ,切替え線,ドレス

1. はじめに

衣服形態をその構成上の特徴から大別するとき 3 種類に分類される¹。服飾材料である布帛を裁断 縫製せず,身体に直接巻く,懸けるといった手法 で着装する懸衣の形式,体幹部と上肢をゆったり と包む寛衣の形式,身体のラインに緊密に合わせる形状に裁断縫製された窄衣の形式である。

第3番目に挙げた窄衣形式は,裁断縫製のテクニックを要する服装形式である。西洋の古代文明にもすでに身体に緊密な衣服を着用したクレタ島の服飾などの例が挙げられるが,西洋の服飾文化の中でそれがひろく広まったのは中世ゴシック期を経て,ルネッサンス期よりと考えられるであろう。この時期より男性服飾は脚のラインを強調する服装に固執し,女性の服飾は今日の服飾用語で言うところのコルセットやパニエといった身体ラインを補整する下着を着用して,パストの膨らみ,ウエストのくびれ,ヒップの膨らみを強調するフィット&フレアーのシルエットを描いてきた。19

世紀初頭にハイウエストのシュミーズドレス:エンパイアスタイルによるストレートなラインが登場するまでの4 500年に亘り,それは女性的なシルエットの代表であった。現代服飾においても,1947年にパリ・オートクチュールデザイナー,クリスチャン・ディオールが発表したニュールックに見られるように(図1),依然としてその造形上の魅力はあせていない。

では、バスト、ウエスト、ヒップのボリューム感をその形状を応じて包み込む衣服の設計にはどのようなテクニックが必要となるのか。仮に紙のような素材で衣服を形作るとすれば、立体の設計に応じて紙を折りたたみ、あるいは切り開き組み立てなおすという作業を要するであろう。そこに生まれるのは直線的な面の組み立てによる立体である。しかしながら服飾の素材である布帛はこである。しかしながら服飾の素材である布帛はこ次元の形状であるが、適度にたわむ性質をもつことにより、三次元の身体を包む衣服として形作られる過程で、それはダーツや構造上の切替え線の組み合わせにより、曲線的な面で構成される。さらにはギャザーやタック、プリーツやフレアーとい



図1 クリスチャン ディオールの「ニュールック」 (TASCHEN 「京都服飾文化研究財団コレク ションFASHON」)

った様々な表情を見せてデザイン上の効果をあげるのである。フィット&フレアーのシルエットは抽象化すれば,円錐台形の組み合わせのシルエットであるが,人体の形状を考慮すれば勿論それは不定形な形状である。

本報告では,このフィット&フレアーのシルエットとその構造上の切替え線に着目し,服飾設計の要点とデザイン上の表現性について検討する。

2. 服飾設計

1) 身頃原型

被服構成の手法は2種に大別することが出来る。 それは人台に布帛をあててその造形上の効果を確かめながら,デザイン設計をしていく立体裁断法と,人体計測値を用いて,紙上にデザイン画のイメージを具体化する平面製図法である。後者では設計の手順をより簡便にするために,人体計測値に応じた原型を設定し,そこからデザイン展開を行う。原型は体型の複雑さに留意しつつも,その複曲面を単純な平面に置き換え,人体の寸法に設計されている。このような手法は日本では洋裁技術が普及する過程で熱心に研究され,教育現場でも活用されてきている。本報告では文化式原型成人女子用を使用して,論を進めていく。この原型については以下のように解説されている²²。 女子原型の特徴ともいえる胸のふくらみを形作るためのダーツ(布をつまんで胸のふくらみに合わせる)がとられている。その位置は、バストポイントの方向に向かってどの方向からとられていても原型としてのシルエットは同じである。そのダーツ量が多ければ立体感の強いシルエット表現の原型ということになり、ダーツ量が少なければ平面的(フラット)なシルエット表現に適した原型といえる。(図2)

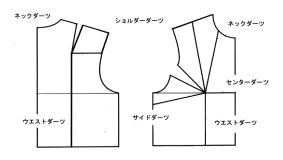


図2 見頃原型と胸くせダーツおよび肩ダーツの 方向

やじりの形で構成されているダーツは二本の線 を縫い合わせると, 布に立体的な膨らみを生じさ せる。女性の胸部および胴部に着目すれば,前身 頃ではバストポイントに向かっての強い突出,後 ろ身頃では肩甲骨に向かっての突出, そしてバス トラインからウエストラインに向けてのカーブが 特徴である。この形状を無理なく包み込むために、 アームホールからバストポイントに向けて,ショ ルダーラインから肩甲骨に向けて,ウエストライ ンからバストラインに向けてダーツが入れられて いるのである。他に図2に示すようなダーツ方向 がある。文化式原型成人女子用には着用に必要に なる最小限のゆとり(身幅= B/2+6,ウエスト周 0 = W/2 + 3) が加えられている。この原型で布 帛を縫製して着用すると,身体を単純な平面で組 み立てて覆い包む。しかし,ダーツ線のみのデザ イン表現ではその印象は単調になりがちである。 そこでデザインイメージを広げるためにはダーツ からのデザイン展開が必要になる。

2) スカート原型

次に下半身に視点を移すと,その形状は大きな 腰部と 2 本の脚部によって構成される複雑な立体 である。しかし女性用の服種としてスカートの構 造は脚部の分割はせずに,一括して包括するので, ここで問題となるのは,前スカートではウエスト ラインから腹部に向けての膨らみ,後ろスカート ではウエストラインから臀部に向けての膨らみで ある。これらをカバーするためにはやはり適切な 位置と量のダーツがウエストラインから下方に向 けて配置されている。この原型のとおりに縫製す るとウエストからヒップラインに向かって適度な ゆるみをもったスカートシルエットが得られる。 ただし, 裾周りの分量は十分でないので, シルエ ットは円錐形にはならず,扁平になる。フレアー スカートのシルエットを得るためには、ダーツ量 の裾線への移動, さらに裾周り分量を増やす必要 がある。

3) フィット&フレアーの基本的設計

上記の身頃原型,スカート原型を組み合わせて, 上半身をボディラインに沿わせ,ウエストをマークした裾広がりのフィット&フレアーのワンピースシルエットを得ようとしたとき,ごく典型的なデザインとしては,プリンセスラインやパネルラ

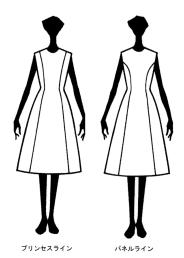


図3 フィット&フレアーシルエットのプリンセスラインとパネルライン (文化出版局「服飾造形講座 3 ブラウス・ワンピース」)

インのシルエットが好まれている。(図3)プリンセスラインは肩からバストポイントを通り,裾に向かって縦に流れる切替え線で,バスト,ウエストを強調し,裾広がりのエレガントなシルエットである³。また,パネルラインはアームホールからバストポイント付近を通り,ウエストラインから裾に向かって流れる切替え線である⁴。これらはいずれも切替え線の位置に原型上にある胸ぐせダーツやウエストダーツ量を分散,移動して処理をしている。

これらのデザインは女性のボディラインの曲面に沿った切替え線が特徴である。切替え線のスムーズな流れは見る者の視線を上下方向に動かすデザイン上の効果がある。また,体幹部を正面と側面に分割しているので,着用者の身体イメージをすっきりと見せる効果ももつ。

3. デザイン展開

原型のダーツ量を随意の位置に移動,分散していく方法により,フィット&フレアーのシルエットを設計しようとすると,実際には上記のデザインにこだわる必要はない。様々な位置に切替え線を設定でき,シルエットはほほ同一でありながら切替え線のヴァリエーションによる新たなデザインイメージを得ることができる。以下にその展開例を示す。

1) 水平方向の切替え線

まず、第一のデザインは水平方向に何箇所かに 切替える方法である。これはアームホール上の胸 ぐせダーツをウエストライン上に移動した上で、 ダーツどまりの位置にウエストラインを基準にし て水平方向に切替え線を入れている。そこではダ ーツはたたんで処理することが可能になり、パー ツにはダーツ線は無くなり、扇の形状になる(図 4)。スカート部分もウエストからのダーツを同様 に、ダーツどまりの位置を持って切替え線を入れ る。ダーツ量はいずれもたたんで処理され、パー ツにはダーツ線はなくなり平滑な面で構成される ことになる。

フィット&フレアーのシルエットの中では,上記の水平方向の切替え線をデザイン上で活かし,

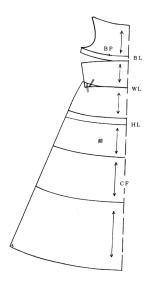


図4 水平方向の切替え線によるドレスパターン

水平の切替え線を繰り返すことが可能である。各 パーツは扇の形状の繰り返しである。

このデザイン例として図 5 を示す。このドレスの特徴は、それぞれのパーツはお互いに縫い合わされてはおらず、各パーツにあけた鳩目穴にリボンを通してパーツを連結されていることである。このデザイン例はこのようにリボンでの連結を考えたことで、リボン結びが装飾的な効果をもち、ドレス自体は白色であるが、リボンの色を時々に応じて取り替えカラフルなデザインイメージにチェンジすることができる。さらに、時にはフルレ



図5 水平方向の切替え線による応用例

ングスのドレス,時には膝丈のドレス,というようにデザインヴァリエーションをもつことが可能になった。

2) 垂直方向の切替え線

第二のデザインは体幹部に沿って上下方向の切替え線を設定する方法である。アームホール上の胸ぐせダーツはショルダーラインとウエストラインに分散させて処理できる。先に挙げたプリンセスラインもこの方法であるが,この考え方をさらに応用して,体幹部に複数の上下方向の切替え線を設定することができる(図 6)。すると,プリンセスラインは前身頃を3つのパーツで構成していたのに対して,このデザインでは切替え線の設定数を増やすことでパーツは細分化される。各パーツはウエストの位置でつき合わされた細長い日形の組み合わせになる。それぞれの切替え線の位置で,体幹部の凹凸にフィット性が高まり,スカート部では円錐台形の強い広がりを構成することが可能になる。

このデザイン例として図 7 を示す。このドレスは上下方向への切替え線に全てファスナーを利用した。切替え線は脇線も含めて,前身頃,後ろ身頃に合計 14 本設計されている。ファスナーのシルバーのラインが黒いドレスにシャープな印象を強調している。ファスナー部分は全て開閉が可能

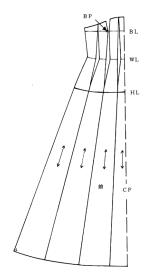


図6 垂直方向の切替え線によるドレスパターン



図7 垂直方向の切替え線による応用例

であり,ドレスのデザインとしてファスナーの一部を開き,アンダースカートのカラフルなフリルを下からのぞかせ,デザイン効果を高めた。

3) 螺旋方向の切替え線

第三のデザインは全身のシルエットの中で切替え線が螺旋状に描かれるデザインである。基本的なダーツのラインは螺旋の切替え線の中に細かく分散・移動され、ドレスの表面上では姿を消してしまう(図8)。スカートデザインの中ではエスカルゴスカートと称されるデザインがある。このデ

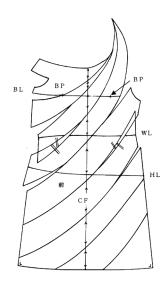


図8 螺旋方向の切替え線によるドレスパターン

ザインの場合は、カタツムリの渦のようにスカート上に切替え線が入っており、切替え線の位置でフレアー量が増加され、フラメンコダンサーの衣裳などで揺れ動くスカートの裾が強調される。今回のフィット&フレアーのデザインの中では、身頃の構成もダーツを分散・移動させてボディにフィットさせていることが特徴になる。

このデザイン例として図 9 を示す。このドレスは Sweets というテーマの中で,ソフトクリームをデザインソースとしており,ソフトクリームがくるくると搾り出されるさまを螺旋の切り替えで表現した。上記 2 例とは異なり,パーツをストロベリー,キウィ,ブルーベリーといったソフトクリームのフレーバーをイメージして3 色にわけている。このように切替え線を利用して色彩の変化を効果的に表現することが可能になる。



図9 螺旋方向の切替え線による応用例

4) デザインの効果

以上,3点のデザイン例からデザイン上の特徴について検討した。まず,切替え線はデザイン効果として考えると,見る者の目をとらえ,線の方向に沿って視線が動かされる。そのため,基本的なイメージとしては,水平方向の切り替えでは安定感を,上下方向の切替え線は上昇感を,スパイラルの切替え線ではくるくると渦巻く強い動きを感じさせる。

次に,切替え線の位置,各パーツの幅や大きさを検討することで,水平方向の切替え線でも,パーツの大きさのグラデーションにより上昇感を生じさせることも考えられる。上下方向の切替え線の場合では,体幹部の幅の印象が変化する。

また,図9の例のように,切替えを利用した各パーツの色彩がデザインに効果的に生かされる。各パーツの色合わせによっては,切替え位置の増減により,スムーズな色彩のグラデーションを表現したり,色彩のコントラストを楽しむデザインを設計することも可能である。

切替え位置を細分化すると,特に凹凸の多い身頃はより高いフィット性をもつことができる。衣服のフィット性は素材の伸縮性に寄与することが大きいが,このような切替え位置の細分化は,伸縮性の低い布帛を使用する場合には効果的である。さらに極端に言えば,伸縮性を持たない異素材による服飾をモティーフとする造形物の設計も可能となる。

4. おわりに

女性のドレスシルエットの典型の一つである,フィット&フレアーに着目し,その構造を切替え線の設定から検討した。本報では,水平方向,垂直方向,螺旋方向の三種を取り上げた。いずれも切替え線により,各パーツは相似性を持った幾何学的図形を描き,それらが複数縫合されることで,女性の身体イメージを表出するという,立体構造

となる。いずれの場合も切替え線の設定位置と本数の配慮により、身体の形状に対し高いフィット性を示すことと、線の持つデザイン効果などで従来のプリンセスラインやパネルラインとは異なる表現性を持つことが確認できる。

また,本報で示した3例をさらに応用すると,切替え線の設定により各パーツを細分化し,三角形,四角形さらに多角形に分割したデザイン設計も可能になる。平面形状である布帛から立体構成をする手段の一つとして,このような切替え線とパーツの形態による表現は,デザイン効果としても可能性をもつものであることがわかる。

それぞれの作品は家政学科家政学専攻,大森麻衣(平成17年度卒業),宮澤友里(平成20年度卒業),張明悦(平成19年度卒業)が卒業制作の一環として取り組み,制作した。

- 1) 谷田閲次,石山彰『お茶の水女子大学家政学講 座 9 服飾美学・服飾意匠学』(光生館,1969 年),29-52頁
- 2) 文化服装学院編 『文化ファッション体系服飾造 形講座 服飾造形の基礎』2000 年 4 月 1 日 文化服装学院 教科書出版部 72 頁
- 3) 文化服装学院編『文化ファッション体系服飾造 形講座 ブラウス・ワンピース』2000年4 月1日 文化服装学院 教科書出版部 129頁
- 4) ibid.

(2009.3.27 受付 2009.5.20 受理)